

第5回日中韓建築文化遺産保存 国際学術会議の開催

奈良文化財研究所では、中国文化遺産研究院、韓国国立文化財研究所とともに、建築文化遺産とその保存に関する共同研究を進めています。2013年度は、第5回となる国際会議を11月13・14日に奈文研でおこないました。

今回のテーマは、「集落・町並みの調査と保存・活用」です。日本での文化財制度の下では、集落・町並みは伝統的建造物群保存地区として保存がはかられ、現在までに86市町村106地区が、国から重要伝統的建造物群保存地区として選定されています。住まいとして生き続ける伝統的な集落・町並みは、さまざまな現代的な要求にさらされています。その保存と活用には、制度的な側面、保存対策を施すための基礎調査、そして地域住民の方々の理解や協力によるまちづくりの活動が欠かせません。そこで、3国の制度、調査方法、保存・活用の取組について発表をおこない、諸活動の問題点を共有し、新たな視点や解決策について活発な討論や情報交換がなされました。

韓国では世界遺産を見据えて精選された8地区が重要民俗文化財として指定されており、それらの保存・活用への取組について発表がありました。中国では歴史文化的名城名鎮名村として350地区が選定され、2013年度の申請は275地区におよぶ申請があったことが報告されました。広大な国土の膨大な数の伝統的集落・町並みへの取組について発表がありました。日本側からは、奈文研で現在おこなっている調査について報告し、亀山市のまちなみ文化財室嶋村明彦室長から、重伝建地区「関宿」の保存・活用の実際について発表していただき、各国の研究者が熱心に聴き入っていました。（都城発掘調査部 黒坂 貴裕）



会議討論の様子